

# 「川内川あらし」売り出せ

## 晩秋から初春 雲海の奔流



川内川の河口から海へと流れ込む霧  
11月9日、薩摩川内市の月屋山から

晩秋から初春にかけて、川内川に立ちこめた霧が市街地をすっぽり覆う雲海は、薩摩川内市の季節の風物詩となっている。霧は川沿いに流れ、河口に近づくと勢いを増し、強い風となって吹き抜ける。地形や気象条件がそろって初めて発生する珍しい現象で、気象予報士や地元有志らが「川内川あらし」と名付け、地域の名物にしようとPRに乗り出した。

## 地元と予報士 プロジェクト始動

前日の雨から打って変わって晴れた9日朝、川内川河口で「あらし」が発生。海に向かって霧が流れていく様子が見られた。

「あらし」は、風が弱く晴れて冷え込んだ早朝によく起きる。水蒸気を多く含んだ空気が放射冷却で冷やされ、霧が発生。盆地状の平地が広がる市街地あたりを霧はゆっくり流れ、雲海となる。下流に行くに従って平地は狭くなり、両岸に山が迫って、霧の流れは速くなり、河口付近で文字通り「嵐」のような強風となり海へ流れ出る。幻想的で息をのむ光景だ。

河口に向けて両岸に扇状の平野が広がる川が多い中、河口が細首の瓶のようになった川内川の地形は珍しい。「あらし」はこの地形だからこそ起こる現象だが、地元では見慣れた光景で、名物にしようとする人はいなかった。

その「あらし」の魅力に引かれたのが気象予報士の今村聡さん(47)＝鹿児島市。10年以上前、仕事で薩摩川内市を訪れた際に目にし感動したという。見物に適した場所を探して通ううちに、地元の人と交流が生まれ、売り出しに一役買うことになった。

2月、今村さんが所属する日本気象予報士会鹿児島支部や地元の水引地区コミュニティ協議会などの有志が集い「川内川あらしプロジェクト」が始動した。

ホームページを開設し、メンバーが撮影した写真や動画を載せた。ポスターを作って市役所や港などに掲示した。気象キャスター2人がPR隊を結成し、市内外のイベントでも情報を発信している。

今村さんは「身近な川で珍しい現象が見られることを広く知ってほしい」と話す。

### 【見物のポイント】

- ・時間帯は、早朝から午前10時ごろまで
- ・夜中から朝にかけてよく晴れる
- ・朝方に冷え込む
- ・東寄りで弱い風
- ・前日の日中に雨が降れば発生しやすい
- ・満潮と重なれば、海の「けあらし」と相まってさらにダイナミック



「あらし」を目玉にした観光には先例がある。愛媛県大洲市の肱川で見られる「肱川あらし」だ。地元では古くから冬の風物詩として親しまれ、観光関係者や住民らがPRに取り組んできた。

発生初日を当てるクイズは、全国に名前を広めようと約20年前から続く恒例企画。景品は特産品などで、毎年数百件の応募がある。有志グループがホームページで見ごろ情報を発信している。

同市も発生メカニズムや写真をまとめたDVD付きガイドブックを作成したり、河口を望む公園にライブカメラを設置したりと、観光の目玉として前面に打ち出している。

同市職員の米澤忠彦さん(33)によると「あらし」の発生は年10~15日程度。だが、「何日か滞在して見に訪れる県外客もいる。市が盛り上がるきっかけになっている」という。



川内川あらしを観光資源にするには課題がある。発生は天候や気温などに左右されるため、一般の観光客が予測するのは難しい。見物を売り出しても無駄足になっては長続きは望めない。

信頼できる予報を出すには気象予報士の存在が心強いが、簡単ではない。法律では、気象庁以外の方が予報業務を行う場合、許可を受けなければならないとされている。霧は気象現象の一種のため、「あらし」の発生予想は予報業務に当たる可能性がある。

許可を得ても、毎月数万円単位の負担金を気象業務支援センターに支払う必要があり、企業や自治体の後ろ盾がなければ継続は難しそうだ。

また、見物は朝に限られるため、遠方からの観光客を呼び込むには、甕島や古くから湯治場で見られる川内高城温泉など、近くの観光地との一体となったPRも求められる。

動き出したばかりの「川内川あらし」のプロジェクトだが、活動の広がりが期待される。水引地区コミュニティ協議会の小平敏明会長(77)は「組織の立ち上げや市とのタイアップなども視野に、地域の活性化につなげていきたい」と見据える。(常深さゆり)

展望台、物産館…

## 河口部見どころ続々

川内川河口部ではこのところ、観光振興を図る取り組みが相次いでいる。

川内港を見下ろす標高約160mの月屋山に2015年、水引地区コミュニティ協議会が展望台や散策路を整備し、初日の出見物登山のイベントなどが好評。今年9月には展望台に手作りの「願いの鐘」も設置した。展望台からは、河口や東シナ海を一望でき、「あらし」の見物場所としても期待ができる。

甕島と結ぶ川内港高速船ターミナル隣には昨年、漁協直営の物産館兼食堂がオープンし、観光客らでにぎわう。周辺住民らでつくる協議会も、14年から年2回「川内港にぎわい祭り」を開き、活性化に力を入れる。次回は11月25日にあり「あらし」のPRも取り入れる予定だ。

ターミナル内のカフェ「和の郷」では、ソーダやソフトクリームで川内川の水や霧を表したドリンクも新登場。各地の土産物も販売する。午前8時から開くため、スタッフは『「あらし」を見たついでに気軽に立ち寄って』と呼び掛けている。



川内港のイベントで川内川あらしをPRする気象予報士ら＝5月、薩摩川内市の川内港高速船ターミナル

<https://www.sendaigawaarashi.com/>



HOME | 最新情報 | 川内川あらしとは? | ライブカメラ | ギャラリー | ビュースポット | PR隊

薩摩川内市 晩秋～初春の絶景  
 せん だい  
**川内川あらし**  
 The most wonderful landscape and natural phenomenon  
 from Satsuma-Sendai Kagoshima JAPAN.

フォト倶楽部「写楽」の写真展開催されました October 2, 2017

スーパーJチャンネルで紹介されました September 29, 2017



HOME | 最新情報 | 川内川あらしとは? | ビュースポット | PR隊

**「川内川あらし」プロジェクト始動!**  
 February 12, 2017



薩摩川内市役所シティーセールス課、コミュニティ課、薩摩川内市議、FMさつませんだい、せんだい宇宙館、水引地区コミュニティ協議会、参議院議員秘書、鹿児島地方気象台、日本気象予報士会鹿児島支部、ホームページの制作者が集まり、「川内川あらし」のアを

特集記事



川内川あらしPR隊の紹介ページ開設  
 September 3, 2017

最新記事



November 7, 2017



November 5, 2017



HOME | 最新情報 | 川内川あらしとは? | ライブカメラ | ギャラリー | ビュースポット | PR隊

川内川あらし  
**発生メカニズム**  
 Mechanism of phenomena

